10/31
赤旗

国民連合政府という「正気」

戦争法廃止へ 今言わなければ

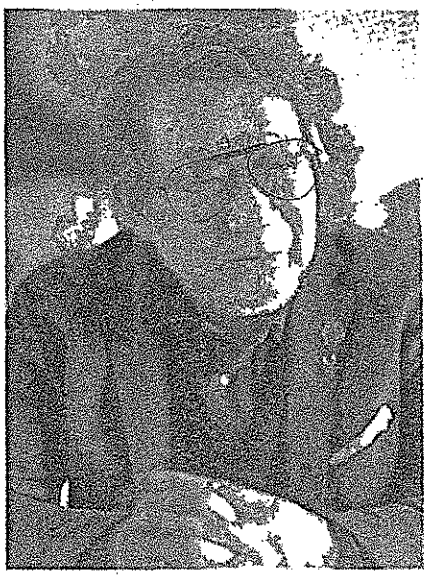
映画作家 大林 宣彦さん

9月19日安保法案が強行採決されましたが、これで終わりではない。9月19日は新しい始まりの日です。

自由に自ら行動

60年の安保闘争では組織的に集められ、熱病のように参加した人が多かった。だから事後には急速に忘れられていきました。でも今度は、まさに主権者国民が日常のなかで感じ考え行動している。

国民が自由に自ら集まり、結果として国民連合政府になる機運が根底にある、とても大事なときです。そこに、意のある言語を付加し、リードする仕組みは必要で、それが今回の志位さんの提案となった。共産党のたたかいではなく、主権者である個々の私の主張であって、国民の意思に共産党が寄り添った。日本の歴史にとって記憶すべき、「ノーベル平和賞」に当たるようなことだと思っていますよ。



おおばやし・のぶひこ　1938年広島県生まれ。77年「HOUSE／ハウス」で商業映画に進出。「転校生」「時をかける少女」「さびしんぼう」の〝尾道三部作〟ほか多数。近作に「この空の花―長岡花火物語」「野のななのか」

僕は年中、映像や童話などの審査員を務めています。今年は、これから起きうる戦争に対し自分たちはどうするのかと、小中高校生が一心に考えて作った作品が顕著でした。

おとなは子どもの力をあなどっていますからね。18歳選挙権も、おとなの自由になると思ったからでしょうが、これは読み違え。僕の地元の駅でも中高生が「僕たちの未来は僕たち自身が守る」とビラをまいています。子どもは、おとなの世界を本気で見つめて、自分たちが生きる時代がどうなるかを真剣に考え始めていますよ。

狂気に抗する力

僕は敗戦時7歳でした。昨日まで信じていた日本の「正義」は間違い。勝った国の「正義」が正しいのだと教えられ、勝ち負けで決まる「正義」はもう信じない。戦争という狂気に立ち向かうには、「正気」しかないと考えていたら、共産党が一番「正気」の発言をしているように思われた。

国民連合政府は、いわゆる戦争法という狂気に対する正気の提案です。国民連合政府という正気の力で結び付けば、この国の平和を実現していくんじゃないかと思いますよ。現在の政権を生んだのも日本のおとなです。これを僕たち共通の失敗として、反省するところから始めましょうよ。

聞き手　田中佐知子
写真　佐藤 光信